

北鹿の学び舎から

2021-2022

OB、在校生、学校の今

2021コラム掲載に当たって

秋田職業能力開発短期大学校

校長 後藤 康孝

人は、「所詮は職業人になる。そして社会の一員として地域、社会を支えていくことになりま

す。職業生活に最も近い大学等の教育訓練機関は、「学生」に対して職業人としての「生」きる術を「学」ばせ、そして身に付けさせる責任が

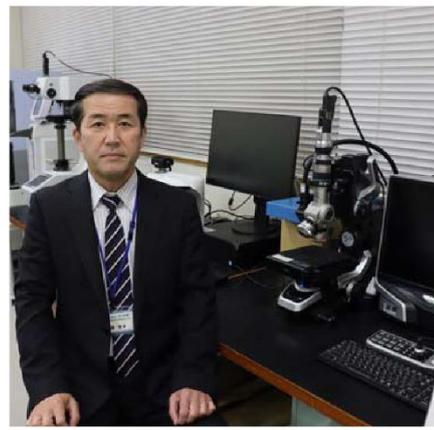
秋田県立鷹巣技術専門校 (テクノスクール鷹巣)

校長 阿部 等

今年度も本コラムを通じて秋田職業能力開発短期大学校様と共に、北鹿新聞社様の紙面上で鷹巣技術専門校の修了生を紹介させていただくこととなりま

ものづくり現場を想定した実段階的に展開することで、実際の学習を基礎から応用まで盤としての技術・技能の習得と最新の技術の学習を可能にしていま

す。しかし、長期間の職業生活を考えるのと、技術革新やそれに伴う産業構造の変化に遭遇し、身に付けた技



術・技能が通用しなくなる可能性があります。そのような状況を克服し職業人としての学びを可能にするためには、職業生活の全期間を通して、学び続けることが不可欠です。

また、この生きる術の習得は、職業生活に最も近い学びだけでなく、教育界全体として取り組むことが理想と思えますが、既に、ここ大館として秋田県では、主体的に学ぶことや考え抜くことを授業目標とした優れたキャリア教育等を展開しており、当大学の教育訓練との親和性が高く、その効果が現れてきていると感じています。

職者を対象とした建設機械運転の4科を設置しているほか、在職者のスキルアップを目的とした短期間の職業訓練を実施して

ります。また、施設外では、民間教育訓練機関等に委託して

離職職者等を対象とした2か月から6か月の職業訓練を実施しております。



さて、県では職業能力開発促進法の規定により、県内で行われる職業能力の開発に関する基本となるべき計画である「第11次秋田県職業能力開発計画」を本年10月に策定いたしました。

本計画は、令和3年度から令和7年度までの5年間を対象期間としており、本県の産業を支える人材の育成や労働者の生涯にわたるキャリア形成、多様な職業訓練による就業や転職の支援など、職業能力開発施策の今後の基本的方向性を示しております。また、本計画におけるこれからの県立技術専門校のあり方については、高校卒業生等を対象とした訓練科の定員充足状況等を踏まえ、定員の見直しや訓練科の再編を行うこととしております。

本校では、今後とも多様なニーズや新たな技術に対応した職業訓練を実施してまいりますので、ご支援、ご協力をお願いいたします。